

令和7年9月18日
教 育 委 員 会

近代図書館美術ホール特別展 「アート・オブ・白き陶」を開催します

「白いやきもの」をテーマに、現代の陶芸家3人を中心にした展覧会を開催します。「陶」の芸術的側面を中心に紹介するものです。抽象絵画を描く画家の作品をともに展示し、より空間として芸術性を体感できる内容となっています。

関連するイベントも多数行います。

1 展覧会名 アート・オブ・白き陶

2 会 期 11月1日(土)～12月14日(日)
10時～18時(入場は17時30分まで)
休館日:月曜日、11月23日(日・祝)

3 会 場 近代図書館 美術ホール

4 入場料 無料

5 その他 特別展の詳しい内容は、あらためて記者レクをさせていただきます。

本件の問い合わせ先
教育委員会事務局 近代図書館
担当:学芸係 坂元、森
電話:直通 72-3467 (内線3191)

やきものも、抽象も。



「白いやきもの」をめぐる美術展

アート・ オブ・白き陶

特別展

陶芸家 梶原 靖元

清水 香

中村 清吾

画家 小川 万莉子

北島 治樹

酒井 忠臣

山口 長男

2025

11.1 [土] - 12.14 [日]

休館日：月曜日、11.23 [日・祝]

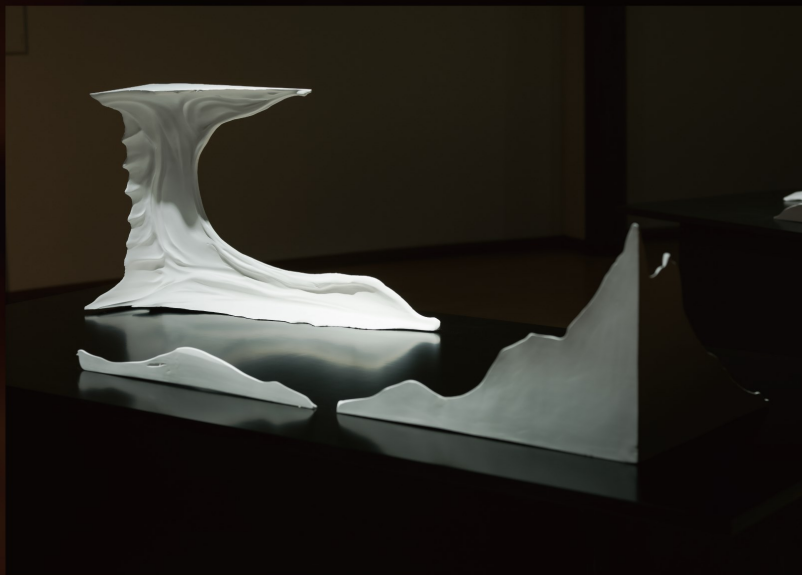
10:00 - 18:00 (入場は17:30まで)

主催 唐津市近代図書館

佐賀県唐津市新興町23番地 TEL 0955-72-3467

入 場 無 料

唐津市近代図書館
美術ホール



「眠りのつづき」2023年 ※出品作品とは異なりますが、同シリーズです
清水 香 (1978-) 鹿児島(長野出身) 鹿児島大学 准教授

美術展で陶を見る

陶の創作は、素材と向き合い、技術を磨き、自身が求める理想を焼成して結実させます。抽象的ではありますが、たとえ器の形をしていても、そこには作り手の芸術性をはらんでいます。本展覧会は陶における芸術的側面に着目し、創意にふれることを目指したものです。「白いやきもの」をテーマにした陶の数々。また自然を創作の源泉としている、抽象絵画を手がける近郊の画家の作品を加え、空間で体感できる内容となっています。抽象的感覚からにじみこむ、陶の表現性。ぜひこの機会に体感してください。

「白磁鉢」2024年



中村 清吾 (1975-) 佐賀・有田町 日本工芸会 正会員

「雲泥の里 偏葺徳利・酒盃」



梶原 靖元 (1962-) 佐賀・唐津市 古唐津研究会 会長

「祀の杜」2019年



北島 治樹 (1950-) 佐賀・佐賀市 独立美術協会 会員 前佐賀美術協会 理事長

「aspect028」2025年



小川 万莉子 (1987-) 神奈川(熊本出身) ギャラリー麟 所属

「黒の空間 08-2」2008年



酒井 忠臣 (1946-) 熊本(宮崎出身、福岡在住) 九州産業大学 名誉教授 福岡県美術協会 会員



「道」1962年 唐津市所蔵 山口 長男 (1902-1983)



関連イベント 全て事前申込不要、参加無料。会場は美術ホール

陶芸家による オープニングトーク

11/1 [土] 10時 - 11時
梶原 靖元
清水 香
中村 清吾

画家が語る白き陶 「景色と景色」

11/9 [日] 14時 - 15時
北島 治樹

トークセッション 「現代陶芸と佐賀の美術」

11/16 [日] 14時 - 15時
高田 瑠美 (福岡市美術館 学芸員)
中村 清吾
坂元 大地 (当館学芸員)

学芸員のギャラリートーク

11/29 [土] 14時 - 15時

講演「うつわから造形まで」

11/30 [日] 14時 - 15時
清水 香

舞踊×美術展

12/7 [日] 各40分(3回)
11時 -、14時 -、16時 -
山田 悠
ダンサー
(福岡加奈子バレエ研究所)



陶の制作実演

12/14 [日] 14時 - 17時
太田 早紀
陶芸家
(波佐見焼伝統工芸士)



交通アクセス

- JR唐津駅下車 徒歩約2分
- 高速バス「アルビノ前」(昭和バス) 下車 徒歩約5分
- 西九州自動車道 「唐津千々賀山田IC」から約10分 「唐津IC」から約15分 「二丈鹿家IC」から約20分



唐津市近代図書館
美術ホール
佐賀県唐津市新興町23番地



「陶」の芸術を体感する美術展です

■ 展覧会の「ねらい」は？



今日の陶芸家たちは古典や伝統から学びつつ、現代人の創作として作品を手掛けています。今回は、その芸術的側面に着目した展覧会です。絵画や彫刻といった作品を見るように「陶」を見てほしい、作家が目指した理想の作品、その芸術性を体感してもらうことを目指しています。

■ 「白き陶」って？



「白いやきもの」がテーマです。

佐賀のやきものが江戸時代に大きな発展を遂げたのは、磁器の原料である陶石が有田で発見され、日本初の磁器を手掛けることができたためです。

「白いやきもの」に作り手・受け手が強い憧れを持ったことは想像にかたくありません。

そこで、佐賀の美術という観点から見ても重要な「白いやきもの」をテーマとしました。

※ここでは、白いやきもの＝磁器という意味で用いてはいません。

■ 絵画も展示するのはなぜ？



やきものは「道具」、「産業」、受け継がれた「手わざ」でもあります。唐津焼、有田焼のように歴史のなかで育まれ、受け継がれてきたものは「文化」とも呼べるでしょう。

ただ、今回は特に表現としての芸術性を感じてもらうことを目指しています。用途のある形を持つため、それは抽象的かもしれません。

そこで、「陶」の芸術性を引き出すために、抽象絵画を共に展示し、空間として感受してもらうことを試んでいます。

より効果的に「陶」の芸術を響き合わせることで、ひいては絵画を見ることと同じように、陶作品を体感してほしいと思っています。

動画でも紹介しています！▶

(YouTube 唐津市公式チャンネル)



■出品作家

陶芸家 ^{かじはら やすもと} 梶原 靖元 (1962～) 佐賀県唐津市



根底にある「唐津焼」、京都での修行や韓国・中国への視察を経て、古典に学びつつも自らの理想の作品をつくりあげる。
近年は「美しいもの」を目指し、豊かな創作を繰り広げる。



陶芸家 ^{しみず かおり} 清水 香 (1978～) 鹿児島県



シリーズ「眠りのつづき」とは、死に対する恐怖が根源にある作品。「ひょっとしたら、死とは眠りの延長ではないか――」
棺桶の外郭をかたちづくり、曲線と陰影によって表現された作品をつくりあげる。



陶芸家 ^{なかむら せいご} 中村 清吾 (1975～) 佐賀県有田町



高いロクロの技術をもとに、豊かな表現力による作品を手掛ける。作為的ではない、無心の表現を志向する。近年は甲虫へのアナロジーを感じ、創作の源泉としている。全国的にも高い評価を受けている。



画家 ^{おがわ まりこ} 小川 万莉子 (1987～) 神奈川県 (熊本出身)



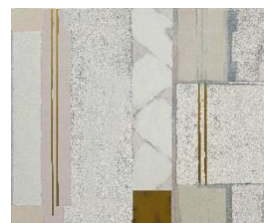
描いた図像がたとえ抽象的でも、光や波、霧、水面に写る光など具体的なモチーフがある。
自分の体感を素直に感じ、描きあげる。



画家 ^{きたじま はるき} 北島 治樹 (1950～) 佐賀県佐賀市



山里を描く。そこにある、独特の姿。日本古来の形や風化していくもの等をイメージの源泉とする。
「陶は抽象そのもの」と表現の交錯を意識し、本展覧会にも高い意欲を持つ。



画家 ^{さかい ただおみ} 酒井 忠臣 (1946～) 熊本県 (宮崎県出身、福岡在住)



「黒こそ東洋の精神の色」という概念から深い精神世界を描く。現代書のような余白と動きを感じる表現のなかに、自らの感受を露わとする作品を手掛ける。



■イベントも多数開催！

佐賀の芸術家の目線でお話します！

「陶」の美術展。しかし、佐賀で絵画制作を続けてきた画家・北島氏によるギャラリートークを開催します。佐賀の土壌が育んだ芸術がベースにある、絵画と陶をつなぐトークイベントです。



「画家が語る白き陶「景色と景色」」

日時：11月9日（日曜日）14時～15時

出演：北島治樹（出品作家）

「現代陶芸」という視点で語ってみます



近現代陶芸が専門の学芸員・高田瑠美氏をお招きし、出品作家の中村清吾氏とともに、現代陶芸の観点からお話をうかがいます！

「トークセッション「現代陶芸と佐賀の美術」」

日時：11月16日（日曜日）14時～15時

出演：高田瑠美（福岡市美術館学芸員）、中村清吾（出品作家）、坂元大地（当館学芸員）

コンテンポラリーダンスと展覧会のコラボレーション



近代図書館初！ダンサーとのコラボレーションを行います。佐賀を拠点に活躍している山田悠氏に、展覧会の会場内で舞踊を発表してもらいます。

山田氏は第80回・第81回東京新聞主催全国舞踊コンクールにおいて、創作部門2年連続2位受賞するなど、全国トップレベルの実力を持つダンサー。

静的なものである「陶」の空間において、身体表現によって芸術性の交錯を引き起こし、相乗効果の発生を狙いとしています。通常の鑑賞とは異なる角度で芸術を体感することを目指したものです。

なんと今回のために新たな音源を用意！
本展覧会だけの特別な内容になっています。

「舞踊×美術展」

日時：12月7日（日曜日）

1回目 11時～11時40分

2回目 14時～14時40分

3回目 16時～16時40分